

くまもと戦跡ネット出前平和講座

〈戦後79年・合志の戦争を知ろう！〉実施計画案

くまもと戦争遺跡・文化遺産ネットワーク

1 活動名 **〈戦後79年 合志の戦争を知ろう！〉**
～フィールドワーク、講話と戦時資料から戦争の実相と平和希求を学ぶ、
修学旅行事前学習～

2 日時 令和6年11月7日(木) 2～4時限 9時25分～12時05分

3 場所 合志市立合志楓の森小学校 多目的教室・2階
合志市栄3793番地5
TEL 096-245-6638
旧黒石原飛行場跡地

4 対象 合志楓の森小学校6年児童123名：3学級
※担当：6年部学年主任 後藤 琴先生
岡田・古屋・島田・村上・池崎先生

5 講師 くまもと戦争遺跡・文化遺産ネットワーク
代表 高谷 和生

現地案内 合志の近代遺産を学ぶ会 上田欣也様
合志市生涯学習課 米村 大様



黒石原飛行場に残された「奉安殿」

7 日程・進行塔

(1) 開会・挨拶・紹介 [9:25]

(2) 現地フィールドワーク [9:25～10:35]

- ア 順路 学校 → 正門跡 → 奉安殿・国旗掲揚塔
→ 教場棟・生徒舎棟基礎 → 方形水槽跡
→ 格納庫内コンクリート舗装部 → 学校
- 各学級毎に上田様・赤瀬様・高谷が案内役で引率
 - 奉安殿・掲揚塔では、合志市米村様による説明

- イ 戦争に勝つために！「陸軍黒石原飛行場」のこと
- 合志楓の森小学校は「旧陸軍黒石原飛行場」のなかに、あるってほんと！
 - どうして黒石原に飛行場がつけられたの
 - 民間パイロット等の養成学校「旧逓信省熊本航空機乗員養成所」とは
 - 陸軍大刀洗飛行学校黒石原教育隊が開校した
 - どのような訓練を、どんな人たちが受けていたの
 - 飛行場に空襲はあったの、犠牲者はいたの
 - 特攻隊はいたの、出撃したの



旧逓信省航空機乗員養成所での訓練

(3) 休息・水分補給 [10:35～10:50]

(4) 戦時資料と暮らしの道具の紹介 [10:50～11:55]

ア 黒石原飛行場をさらに知る！

体験1 陸軍航空兵の軍装

6-〇組・男子()

「どんな服を着て訓練をしていたのかな！
上空はとっても寒かった！」

- 防寒航空服(裏地はウサギ皮)、航空帽、
- 鷲の目ゴーグル、手袋、シルクマフラー

体験2 練習機「ユングマン」はどんな飛行機！
大きさを体感してみよう！

6年わかば学級・複数名

{ : }

- 現物展示：四式基本練習機(ユングマン) ペーパークラフト機、ユングマン機前輪、練習機木製プロペラ半裁現物品、「教育勅語」額装品



「陸軍航空服」の軍装体験

イ 空襲から、原爆投下へ！

- 黒石原への空襲、大規模都市空襲、パンピング爆弾・模擬原爆から原爆投下へ

ウ 進駐軍は「恵楓園」で何を見たのか！

- 「戦後進駐軍が何度も訪れた菊池恵楓園」
- 撮影は米第二海兵師団撮影クルー、意図は
- 恵楓園は、どう進駐軍と向いあったのか
- 全国の療養所で2例目となる、貴重な撮影映像
- 視聴 16³カラー映像の放映、白黒写真の紹介
(約9分間・音声無し)



エ 「戦時資料と暮らしの道具」の紹介

～戦争の日常を身近に感じてみよう！～

- 体験3 戦時・銃後の婦人 6-0組・女子()
「もんぺはどんな着心地かな！ 動きやすい！ 防空頭巾で命は守れるの！」
○女性用もんぺ、上着、防空頭巾、雑嚢、防毒マスク、婦人会たすき 他

- 体験4 戦時の空襲 6-0組・男子もしくは女子()
「焼夷弾ってなに！ 落ちたらどうなるの！ 合志に空襲はあったの！」
○M69焼夷弾、紙の爆弾「伝単(でんたん)」複製
○空襲警報看板、警報サイレン、警防団アルマイト製鉄帽、紙製鉄帽、消火弾、灯火管制笠・電球 他

- 体験5 学用品から見る戦争 6-0組・男子もしくは女子()
「軍国少年・少女の育成に向けて！ 戦時色・柄にあふれた学校と生活！」
○紙製ランドセル、「修身」教科書、キンダーブック、筆箱、東郷鉛筆、東郷人形、王様クレイヨン、画学紙、戦時柄画板 他

(5) 感想発表・謝辞・閉会

[11:55~12:05]

7 その他

- 長崎方面修学旅行は「11月25日(月)・26日(火)」である。
- 平和継承リーフレット『黒石原飛行場と奉安殿』は、貸出しパネルで紹介
- 児童・職員用に本会作成の平和継承リーフレット『進駐軍の見た熊本』『進駐軍の見た熊本II』『空襲下の熊本』『松橋空襲』を提供する。
- 準備物：楓の森小：パソコン(パワーポイント入り)、プロジェクター、マイク、展示机
- 展示物：黒石原飛行場パネル、陸軍防寒航空服一式、女性用もんぺ、戦時学用品他 約60点
- 当日、高谷は8時半頃に来校し、会場を準備する。
- 活動紹介のため、報道機関への連絡は、学校及びくまもと戦跡ネットの双方より行う
- ご取材の報道機関は、事前に「上田教頭」までご連絡ください。



令和5年度の「出前平和講座」の様子 □「練習機ユングマンの大きさ」体験 □「ちいちゃんのかげおくり」体験



連絡先

- くまもと戦争遺跡・文化遺産ネットワーク 代表 高谷 和生
- 〒865-0061 熊本県玉名市立願寺126-5
- 携帯 090-1513-5528
- メールアドレス takayanagi912@yahoo.co.jp
- 会HP <https://kumamoto-senseki.net/>

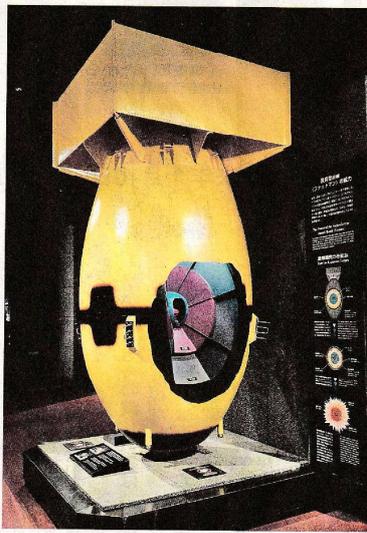
【核兵器】

ことしのノーベル平和賞は、広島や長崎で原子爆弾（原爆）の被害にあった人たちがつくる日本原水爆被害者団体協議会（被団協）におくられます。「核兵器」をなくすよう、世界にうたったる活動がみとめられました。

核兵器には原爆や水素爆弾（水爆）などがあります。原爆は、ウランなどの物質にある小さな原子核がわれる「反応」を利用し、高い熱や強い爆風、強い放射線を出す兵器です。水素は、原爆を使って水素などの原子核をむすびつけ、原爆より強大なエネルギーを出すおそろしい兵器です。

1945年8月、日本と戦っていたアメリカが広島と長崎に落とした原爆で、その年末まで

世界に今も1万以上…心配する声



長崎に投下された原子爆弾の模型
= 2015年、長崎市の長崎原爆資料館

に計約21万人が亡くなったとされます。戦後にはアメリカとソ連（今のロシア）が核兵器の開発をきそい、アメリカの水爆実験のため、太平洋で日本の漁船員が放射性物質をあひる事件も起きました。

世界には今も1万以上の核兵器があり、各地で争いが続くと、核兵器が使われる心配もありま

ニュースの
ヒント

す。戦争で原爆の被害を受けた日本は、地球上から核兵器をなくすための行動を求められています。



県被団協の記者会見で発言する工藤武子さん=23日午後、熊本市

「核減ってない 人類への警告」

平和賞受賞 県被団協訴え

日本原水爆被害者団体協議会（被団協）のノーベル平和賞受賞決定を受け、熊本県原水爆被害者団体協議会（県被団協）が23日、熊本市内で記者会見を開き、武田頼弘会長（80）は「喜ばしいことだが、受賞によって核が減ったわけではない。人類への警告だ」と危機感を示した。

7歳の時に長崎の爆心地から約3キロの自宅で被爆し、昨年8月9日の平和祈念式典で被爆者代表を務めた工藤武子さん（86）は、今も小学校で体験を伝える活動をしている。授与決定に「被団協を知らなかった人も耳を傾けてくれるのでは」と期待を寄せる一方、平和や核兵器について「若い世代にはもっと自分事として考えてほしい」と強調した。

被爆者の高齢化が進み、県被団協の会員のうち被爆者は今年3月末で592人で、平均年齢は86歳となった。被爆2世の原田俊二さん（78）は、体験継承の担い手不足に「2世も70代。より若い世代に真相を伝えなければ」と懸念した。